

心房細動は心筋梗塞のリスクを高める

心房細動患者では、心房細動のない患者に比べて脳卒中リスクが4~5倍、死亡リスクが2倍高い。心筋梗塞が心房細動の危険因子であることは既に確立しているが、逆に心房細動が心筋梗塞の危険因子かどうかは研究されていない。

そこで、本研究では心房細動と心筋梗塞リスクとの関連についてアメリカ合衆国の23,928人を対象に検討した。そのうち心房細動患者は1,631人で、約7年間追跡したところ、心筋梗塞をおこしたのは648人であった。解析の結果、心房細動患者の心筋梗塞発生率は、心房細動のない患者の約2倍となった。この関連は、総コレステロール値、喫煙、収縮期血圧、降圧薬、BMI、糖尿病、抗凝固薬やスタチンの服用、脳卒中の既往などの因子について補正しても認められ、男性よりも女性、白色人種よりも黒色人種でとくに顕著であった。一方、年齢(75歳以上と75歳未満)では有意差がなかった。よって、心房細動は脳卒中の危険因子としてよく知られているが、心筋梗塞のリスクを高めることにも関連することが示された。

出典：Journal of the American Medical Association Internal Medicine. 2013

Online doi: 10.1001